

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792200040		
法人名	株式会社リビングプラットフォームケア		
事業所名	グループホームありあ 1階		
所在地	福島県岩瀬郡鏡石町高久田136-1-2		
自己評価作成日	令和5年8月20日	評価結果市町村受理日	令和5年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に愛されるホーム作りを目指して運営しております。今後も新型コロナウイルスの感染状況を把握しながら地域の方々との関わりを大切にし穏やかに安心して暮らしていけるよう支援に努めて参ります。毎月四季折々の工作づくりを利用者と一緒に行い壁に飾って楽しんでおります。総合消防訓練や毎月の消防訓練を実施し安心した生活が送れるよう体制を整えています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 地域との関わりを大切にすることを理念に謳い、コロナ緩和時には、地域の清掃活動やお祭り等に利用者と参加を再開している。
2. 職員間のコミュニケーションがよく、連携して利用者へ寄り添いながら、明るく笑顔をもって接しており、利用者は落ち着いて穏やかに過ごしている。
3. 町役場も運営推進会議に委員として出席しており、日頃から事業所の現況報告をし、他の委員と共に事業所の課題等をサポートしている。いつでも困ったことがあれば相談できる等協力体制が構築されている。また、空床時、利用がスムーズに行われるよう連絡を取り合っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和5年10月11日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示し毎朝申し送りの際に唱和を行い実施状況の確認、共有に努めている	事業所理念は、利用者が笑顔で穏やかに過ごせるよう地域と関わりながら支援することを謳い、事務室に掲げている。毎朝、申し送りの際に唱和し、職員間で共有しながら、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ対策で受け入れを自粛しており利用者は交流が取れていないが地域の清掃活動に参加し地域の方々と交流を図っている	町内会に加入し回覧板が回ってくる他、コロナ感染が落ち着いている時期には地域の清掃活動に毎月、利用者と参加している。また、今年は地域のお祭りで神輿が事業所の駐車場まで来てもらえたため、利用者も参加することが出来た。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行政の会議の場などで、事業所内の事例を交えて、認知症についての話をすることで、認知症を持つ方との関わり方を理解していただけるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	現在は新型コロナ対策の為書面にて意見交換を行いメンバーの方々からの助言は可能な限り運営に取り入れている	運営推進会議は定期的開催され、事業所からは、事故・行事・利用者状況等の報告を行い、委員から出された意見等はサービス向上に活かしている。現在は、コロナ感染対策で書面開催となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月福祉こども課担当の方に事業所内報告をし助言を受けたり、入居状況を伝え空き部屋がある時は相談したり、担当の方から相談を受けたりと協力関係を築いている。	行政担当者へは外部評価結果や事故報告の提出や介護保険の更新手続きをし、生活保護担当者とは日常的に情報交換や報告・相談を行っている。また、運営推進会議の委員になっており、不明点・疑問点があれば、いつでも気軽に相談できる関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修実施、身体拘束防止、虐待防止委員会を定期的に行っている。その中で身体拘束に当たる行為やその防止策について話し合いスタッフ間で共有し身体拘束を行わないケアに日々取り組んでいる。	「身体拘束廃止に関する指針」をもとに、研修会を定期的開催している。また、3か月に1回、委員会を開催し、チェックシートで日頃の支援を振り返り、身体拘束をしないケアに努めている。職員が利用者へ目配り、気配りをする事で日中、玄関の鍵をかけない自由な生活につながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会の会議や研修を通して虐待についての理解を深め職員同士が虐待につながらないように確認しあいながらケアを行っている	「虐待防止に関する指針」をもとに、3カ月に1回、委員会を開催するとともに高齢者虐待に関わるWeb研修を受け、虐待への理解・防止に努めている。不適切な対応がないか定期的にチェックリストで振り返っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や地域権利擁護に関する研修を受け理解を深めている。利用者で制度が必要な方がいれば利用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には書類を基に説明を行い不明な点がないよう細かく確認しながら契約を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話を通して利用者家族より管理者等へ意見を頂いている。運営推進会議再開時は家族や利用者にも参加していただき意見を発する場を作りたいと考えている	家族の面会時や電話連絡時は、利用者の様子を伝え、意見や要望等を聞き取り、運営に反映させている。利用者の意見や要望は日常の関わりの中からくみ取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見があった際は会議等で他職員からも意見を聞き速やかに検討し対応を図っている。本社の担当者が定期的に訪問し職員の相談などを聞き運営に関する改善に努めている。	日頃から職員間のコミュニケーションはよくとられており、どのような意見等も言いやすい雰囲気である。日常業務や職員会議、個別面談の中で意見を聞く機会を設け、出された意見や要望を運営に反映させている。勤務体制等も職員の希望を聞きながら柔軟に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談を行い実績、勤務状況を把握し処遇改善に反映させることで意欲の向上につなげている。各職員の能力や人柄に合わせた声掛けや業務配置を心掛けています。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月研修があり日々の業務に活かせるようにしています。法人では資格支援制度があり、働きながらスキルアップしていけるように支援している。	介護職員初任者研修や実務者研修の費用等は法人で全額補助し、介護福祉士等の実務者研修も法人で受講することが出来る。また、法人で行うWeb研修も毎月あり、職員の質の向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月県南の管理者会議、リモート研修等で情報交換や意見交換を行い連携を図りながらサービスの向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学時に不安や要望などを確認し把握したうえで入居申し込みや事前訪問を行い入居環境を整えるようにしている。ご本人、家族が安心して入居できるようケアマネ、職員と連携し対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族はどう考えているのか、どうしたいのか、心配や不安、要望等を傾聴し対応するようにしています。入居後も面会の際や電話で意見を聞いて職員も一緒に考え、対応する姿勢をとっています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が何を必要としているのか話し合いながら情報を収集し職員間でも検討しながら対応の仕方を見極めるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の残存機能を活かし出来ることはやっていただくようにしています。各入居者に見合った役割分担を誘導し職員は一緒に生活する「家族」のような関係で見守りながら生活しています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が入居後も以前からの関係性を継続できるようにしています。面会制限はあるものの発熱や体調不良等がないようであれば、面会や外出はして頂いています。家族来所時は必ず情報交換、コミュニケーションを図っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍であり自由にならないこともありますが、できるだけ安全を確認した上で面会の場を設けたり、電話等を活用し、関係が途切れないように努めています。	家族・友人・知人等の面会の際は玄関先で距離を置いて感染予防に努めながら、馴染みの関係の継続を支援している。専門医等への通院の帰りに家族とお墓参り・馴染みの美容室・自宅等へ行かれる方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人のプライバシーに配慮しながら利用者様同士の関係を観察しレクリエーションなどでコミュニケーションが取れるようにスタッフ仲介している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も必要に応じて相談や情報提供をし、本人や家族との関係を大切にできるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの思いや希望、意向は訴えがあった場合だけではなく、雰囲気やしぐさ、何か訴えがありそうな場合は時間を掛けて対応し意向の把握に努めています。必要時はカンファレンスを行い情報を共有し対応します。	日常会話から利用者の意向把握に努めている。また、困難な場合は表情や仕草等から察し、家族から意見や情報を得て、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族様、関係者等から情報を収集し職員間で共有するようにしています。入居してから新たに発覚する情報もある為随時カンファレンスにて周知し、対応するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活状況を観察し、個別的に記録し、本人の心身状況に応じた支援が出来るように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の訴えや生活状況、家族の意見や希望を毎月のケース会議でアセスメントし、カンファレンスを行いその時に合った介護計画を立案しています。運営推進会議は開催出来ず家族が出席する会議の場はありませんが、来所時には家族の意見を必ず聞くようにしています。	3ヶ月毎にモニタリングや担当者会議を実施し、見直しを行っている。利用者との日頃の関わりの中で利用者の思いや希望を把握し、全職員で意見を出し合い、家族の意向を確認しながら、現状に即した介護計画を作成している。利用者の心身状況等に変化があった場合は、状況に応じた見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の身体的、精神的状況や様子、状態、生活状況を個別記録に記入しその情報も含めカンファレンスを行いながら介護計画を見直し日々のケアを実践しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会議にて入居者一人ひとりの情報を共有している。個々のニーズに合わせたサービス提供が行えるよう地域包括支援センター、主治医、家族と連携を図り相談し助言を受けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍ではありますが、行事で地域の飲食店から出前を取ったり、消防訓練の際に消防署の方や地域の方に参加して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の定期訪問診療を行っています。急な体調の変化時にも主治医と家族様と連携を図り病状によっては主治医から他の病院を紹介していただき適切な医療を受けている。	利用者・家族の意向に沿って、従来のかかりつけ医や協力医の月1回訪問診療を受けており、受診結果は電話報告や毎月お便りと一緒に送付している。整形外科等の専門医は家族対応で通院しており、利用者の状態や経過等を口頭で伝え、診療後は家族から報告を受け、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の状況の変化など申し送りを行い職員は利用者一人ひとりの状態を把握している。医療連携を活用しながら看護師に状態報告をし適切なアドバイスを受け適切な支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員が定期的にご家族様や病院へ連絡を行い状態を把握している。退院時は病院関係者、ご家族様と連携を図り情報収集を行い本人が退院後も安心して生活に戻れるように支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては事前確認書を書面にて確認している。重度化した場合は家族の意向と、再度書面にて確認をしている。スタッフは方針を共有し医療関係者やご家族様と連携を図り支援している	入居時に指針に基づき事業所の対応を説明し、終末期の意向を確認している。また、利用者の病状が変化したときも、その都度書面で家族の看取りの意向を再確認することとしている。更に、重度化による終末期対応については、関係者(医師・看護師・職員・家族)等が話し合い、方針を共有しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを把握し定期的な研修を受け、緊急時、事故発生時に早期対応出来るように努めている。AEDの使用方法も定期的に研修を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の防災訓練と、消防署立会いのもと総合訓練を行い対応出来るように心掛けている。非常時の備蓄品も備えている。	火災・地震・水害等を想定した防災訓練の計画書があり、自衛消防隊も編成されている。毎月防災訓練を実施し、消防署との年2回の総合訓練を実施する等連携も緊密である。非常時の食料品・衛生用品等の備蓄も準備されており、定期的に機器の点検も実施している。隣りにある同法人のグループホームとの協力体制はある。	以前は運営推進会議の委員等にも避難訓練への参加協力を得ていたが、コロナ禍以降は地域の協力を依頼出来ていない。今後は地域住民との協力体制を再構築して欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の研修を受け理解をし、入居者一人ひとりの人格を尊重し、どのような症状があっても尊厳を守り言葉遣いや態度に気を付けるよう職員に定期的に周知しています。	利用者との日々の関わりの中で利用者の気持ちを尊重し尊厳を損なわないように言葉や対応に気を配り、馴れ馴れしくなりすぎないようにしている。ケース記録等は鍵の付いているロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や食事の量の希望を聞き選択できるよう配慮をしている。生活の中では行事や誕生日に食べたい物を聞き自己決定出来るような場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の予定はありますが、状況や状態により、無理なことは強制することなく自分のペースで生活していただけるよう、臨機応変、ということを大切にしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容サービスを利用し本人の希望に添える髪型にしている。季節やその日の天候、その日の気分に応じ服を選んだり好みに合った服を着ていただけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	業者から献立や食材の提供を受けているが毎月の行事の時や誕生日の時は入居者様の希望を聞き、取り入れたり、家族様から旬の物の差し入れがあった時には一緒に下ごしらえをし召し上がって頂いています。	配食会社から献立や食材が納入されチルド食を基本としているが、毎月の行事や誕生日には利用者の希望を聞き、全員に手作りの食事を提供している。家族等からの旬の食材の差し入れも利用し、季節感のある食事・おやつ作りをしている。テーブル拭き・食器拭き等利用者と一緒に食事の準備をして、食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を観察し記録している。摂取量が少ない時は食事形態の変更をしたり家族に相談し食べやすい物などを提供し栄養管理につなげています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔が保てるよう個々に応じた声掛け、見守り、介助を行っている。必要に応じて歯科往診を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを観察把握しトイレで自力排泄が出来るよう定期的に声かけ誘導を行い支援している。	一人一人の排泄パターンや排泄サイン(仕草等)を見ながらトイレに誘導し、自力排泄ができるよう支援している。それぞれの居室にトイレがあることから声かけも「居室に行こう」と誘導する等、一人一人の尊厳やプライバシーを損ねないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便確認を行い食事、水分量の把握をしている。便秘薬に関しては主治医の指示のもと使用している。また全身運動をレクレーションに取り入れています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に関しては予定は組んであるが絶対ではなく入居者本人の希望を優先して対応しています。浴槽に入るのが難しい方は、シャワー浴など個々に合った支援を行っている。	利用者の体調や気分等を尊重し本人の希望に沿った入浴を支援している。季節感のあるゆず湯や入浴剤を楽しんでいる。週2回を基本としているが、浴槽に入れない時にはシャワー浴や清拭を行っているものの清拭に関する記録が漏れている場合がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり生活リズムが違うため、就寝、起床、食事等、強制はせずそれぞれのペースに合わせるようにしています。照明などに配慮し、安心して入眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師の指導のもと、管理しています。体調の変化があればすぐに連絡し、対応してもらうなど、連携を図っています。また処方された薬を職員はいつでも確認共有できるように記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お掃除やテーブル拭き、お盆拭き、食器拭き、洗濯物たたみなど、各入居者の得意分野を活かして役割分担を行っています。やりがいを感じ、楽しみや役割として実感していただけるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出は控えていますが、ご家族の協力を得ながら本人の希望にて外出出来るように支援している。行事に外出支援を取り入れ花見の時期や紅葉の時期にバスを使いドライブに出かけています。	家族の協力を得ながら通院の際に外食や墓参り、なじみの美容室に出かけている。帰宅願望のある人にはスタッフが見守りながら一緒に散歩に出かけ気分転換を図っている。桜花やつつじの時期には社有車でドライブに出かけ、地域のお祭りの際には椅子を外に持ち出し山車を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人ひとりにおいてお小遣いを預かり管理しています。利用者によっては家族様の同意を得て本人が管理できる分だけ所持していただいている方もいます。外出して買い物という事が現状は難しいため、欲しい物をスタッフに頼んで買って来て貰っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話を掛けられるように支援しています。携帯電話を持っている方もおり自室で自由にお話をしている方もいます。中には古くからのお友達と手紙のやり取りをしている方もおりホームで撮った写真を送られたりしている方もおります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は毎日掃除を行い明るく清潔に保ち、季節に応じた作品を毎月入居者と一緒に作成し共有空間に掲示している。入居者が自由に使用できる雑誌コーナーも設置し、新聞も誰でも読めるように共有スペースに置いてあります。	共有空間は日に3回換気を行い、スタッフと利用者が一緒に掃除や窓拭きを行う等、明るく清潔に保たれている。共有スペースには地元新聞2紙と雑誌を設置し、利用者が自由に読めるようにしている。また、季節に応じた作品を利用者とスタッフが作成し装飾する等、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール共有スペースで共同で過ごすかたが多いです。入居者の相性に応じた席の配置を行い、一緒にテレビを見てお話をしたり、また一人になりたい時には自室で昼寝やテレビを見るなどで、自由に過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	入居者それぞれが使い慣れた馴染みのものを持参され、ホームでの生活が違和感のないようにしています。	各居室にトイレ・エアコン・クローゼット等が設置されており、利用者は、使い慣れた携帯・布団・衣装ケース・仏壇・写真等を持参している。テーブル式の炬燵や愛読書・ラジオ等を持参し、自分で製作した作品等を飾る等、それぞれその人らしい部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに手摺を設置し一人ひとりの能力を活かせる環境作りをする事で出来るだけ自立した生活が送れるように支援している。状態に合わせてベッドや家具の位置など工夫している。		